

雜 錄

●内地製鐵事業發展策

Y S 生

軍備縮小が製鐵業者に甚大なる影響を及ぼすは論を俟たず、殊に海軍用品の大部分を供給しつつある八幡製鐵所に對しては容易ならざる大問題なりと信ず、従つて同所の作業方針の如何に因りては同所の一大休戚に關するは勿論延ひては民間同業者に與ふる利害も亦頗る激甚なるべきを憂ひ向後如何にせば同所の經營難を防ぎ民間同業者も亦安んじて事業を繼續し得べきやを考慮するに官民合同一致して生産費を低減し能率を増進せしめ技術を發達せしめ以て優良品を廉價に産出することに全力を盡し外國品に對抗するより外手段なし。

惟ふに海軍制限の結果は各國をして軍器の競争より轉じて平和工業用鐵材の競争に主力を傾注せしむるに至る可く、若我國にして是に對する用意を怠らんか彼我の製鐵技術は益々隔絶して追従することを許さざるの恐れあり、海軍休日十ヶ年間は内地製鐵業者が臥薪嘗膽の覺悟を定め協同一致斯業の發達に銳意し一朝海軍競争の再始を見ることあるも直に對應し得る實力を涵養し置くを肝要とす、此目的に於て内地製鐵所の今後採る可き作業方針に就て聊か卑見の大要を述ぶる所ある可し。

第一、内地製鐵業者一般の經營方針

一、内地各製鐵所に臨時財政經濟調査會の決議の主旨に基づき

漸次合同經營に移すものとし其前提として作業及販賣上の連絡を實現せしむること

二、前項の目的に於て民間製鐵所は八幡製鐵所より製造すべき鋼材の種類及數量の割當を受け是れに要する原料即ち銑鐵、鋼塊又は鋼片の配當を受くること

三、民間經營の銻鑛爐に於ける主として製鋼用銑鐵と成分及び價格を異にせる鑄物用銑又は酸性平爐用の製造をなすこと

第二、製鐵所の經營方針

一、八幡製鐵所は、前章内地製鐵業者經營の大方針に由り基本製鐵作業の經營を主とし枝葉的作業は成る丈け民間製鐵所の經營に移されたきこと

二、前項の目的に於て銑鐵、鋼塊及鋼片の製造に全能力を傾注せらるゝこと

三、鋼片の大部分及剩餘の銑鐵及鋼塊は民間同業者に供給せられたきこと

四、民間同業者に於て内地の需要を充たし得る製品は製作せざる可きこと、且又民間に於て製作し得るものは其需用額の不足分のみを製作するの方針を採られたきこと

五、前項の主義に由り製鐵所に於ては主として軌條類並に造船、建築、橋梁用の大型構造材及巨大なる鐵板を製作せらるゝこと

内地各製鐵所は合同經營に移すを可とする可きことは論議の餘地なし、され共種々複雑なる事情を有する民間製鐵所を直に官立製鐵所に合同せしむることは容易の業にあらず、故に前提として作業及販賣上の連絡を實現せしめ以て有無相通じ無

益の競争と重複の失費を省き骨肉の争ひを止めて外敵に對抗するは焦眉の急務なりと信ず、内地製鐵所の現状は製鋼業者よりも製鐵業者の打撃激甚にして五十噸以下の小鑄鑛爐にありては再興の見込なき有様なり、是に反して製鋼業者の猶辛ふじて命脈を維持する所以は廉價なる屑鐵の利用と製產品の技術的價値に差異あるが爲めなり、即ち銑鐵は低燐銑を除けば價格の變化少し是れ素原料なるが故に止むを得ざる次第なり、然るに製鋼業者にありては同一價格の原料より製出する鋼製品をして技術的に五十圓或は百圓以上も高價ならしめ得るの餘地を有す、故に製鐵業なるものは鑛石より銑鐵を作り銑鐵より更に鋼製品を得る迄の綜合作業をなすに於て始めて最も有利なるものなるに我國に於ては此綜合作業をなすものは八幡製鐵所及兼二浦製鐵所あるのみ（室蘭、釜石、鋼管會社等も鑄鑛爐と製鋼製品作業の兼營設備を有すれども完全の綜合作業は認められず）其他は製鋼及製品作業をなすもの製鋼作業のみをなすもの、壓延加工作業のみをなすものにて鰥寡孤獨の寄合と稱するも過言にらず、殊に不可思議なるは鰥寡相適するにも係はらず配偶するを得ず互に孤立の寂莫を啣つものあり、かゝる状態の儘にて斯業を發達せしむることは素より容易の業にあらず、一日も速かに合同連絡し孤立の不幸を除却せざる可からず而して製銑業者の救済は東洋製鐵會社の如く事情の許すものは八幡製鐵所の管理に委せ然らざるものは比較的高價なる鑄物用銑或は低燐銑の製造に當らしめ關稅率を高め或は獎勵金の交附に由て斯業者を保護し製鋼業者の救助は八幡製鐵所の總ての好條件にあるを利用して最も廉價の銑鐵を同所より供給せらるゝことに依頼せんとするも

のなり。只茲に考慮すべきことは八幡製鐵所の銑鐵拂下は民間製鐵業者に壓迫を加へ益々悲境に陥らしむるものにあらずるかとの議論もあらん去れどもそは杞憂に過ぎざる可し、内地に於ける鑄物用銑及低燐銑の需用は少くとも年額二十五萬噸以上なるを以て前陳の如く保護を加ふれば製銑業者は現在の如き滯貨の苦痛を免かれ得るは昭かなり、又翻つて製鋼業者側の立場を考ふる時は製鐵所の製品販賣價格を規準として制定せられたる價格の銑鐵を臨時に使用し得らるゝことは最も安全にして且つ非常に便利なることなるを以て瀕死の斯業者を蘇生せしむるや疑ひなし、斯くの如く兩者の立場には何等の背馳矛盾なきを諒解せらる可し余は現在こそ却て兩者は互に離反せる行動を採りつゝあるものと信ず何となれば製銑業者は滯貨の消化と銑價釣上の爲めに極端なる操業短縮を實行せる爲に瘦せ衰へたる製鋼業者に對する脅威は實に深刻なりとす、故に製鋼業者の窮策は止むを得ず銑鐵及屑鐵の輸入を企畫するに至れり、斯の如く一方に於ては滯貨を啣つ製銑業者あり、他方には銑鐵を求むる製鋼業者あり、しかも骨肉の間柄にして此矛盾は實に慨嘆の至りに堪へざる次第なり、國內の需用額の不足分丈の輸入は致方なきも内地製產品山の如く積まるゝにも係はらず猶毎月巨額の銑鐵の輸入あるは此結果なりと信ず、今や輸入超過に就ては朝野齊しく憂ふる所なり、輸入品中の大宗たる鐵鋼に就ては速かに國策を確立し内地製鐵業を發達せしめ輸入を防遏するは急務中の急務なりと絶糾せざる可からず、然り而して製銑製鋼兩者を相共に救済せんとするには余の主張する如くに民間鑄鑛爐に於ては鑄物用銑及低燐銑の製造を經營し民間製鋼業者の要求する銑鐵

の大部分は八幡製鐵所に供給を仰ぐより外手段なし、幸にも製鐵所に於ては年間十數萬噸の剩餘の銑鐵を有せらる況んや漢冶萍公司とは年額廿五萬噸迄銑鐵を引取り得る契約あるのみならず管理中の東洋製鐵會社の第二鑄鑪の作業を開始せらるれば假令同所の第三期擴張工事完成すと雖も猶同額以上の剩餘銑鐵ある譯なり、現在に於て民間製鋼業者の使用する銑鐵は年額十五萬噸乃至十七萬噸なるを以て其數量に於ても正に適應す、而して製鐵所の銑鐵を民間製鋼業者に限り拂下げらるゝことは民間製銑業者に何等の壓迫を加ふるものにあらずること前述の如くなりとすれば同所に於ても聊かも此點に就て躊躇せらるゝことなく直に斷行せられんことを切望する所以なり。

又製鋼作業を經營せずして單に製品作業のみをなす民間製鐵所に對しては製鐵所は同所の規定せられざる製品販賣價格より逆計算に由つて決定せられたる價格を以て鋼塊又は鋼片を支給せられんことを希望するものなり、若し製鐵所にして萬々一自家の立場のみを考へられ軍縮に由つて蒙れる同所の製品減額を市場向製品製造のみ由つて補充せんことを計畫せらるるなれば民間製鐵業者の頭上に加はる壓迫は到底耐ゆること能はず倒滅に歸する外なしと思考す、八幡製鐵所に於ては既に東洋製鐵會社を管理せられ民業保護の實例を示さる故に更に此恩恵を擴大せられ一般製鐵業者に均霑せしめらるゝことは強ち我田引水の私論にはあらずるべしと信ずるのみならず、上述の保護策を採らるゝ爲めに同所の經營上に及ぼす影響も只單に御迷惑千萬のみにはあらずる可く常に仄聞する同所の經營難も是に由つて芟除せらるゝものにあら

ざるか、元來八幡製鐵所は其規模の宏大なること設備の完整せること且又二十有餘年間の訓練に由つて優秀なる技術者を有せらるゝことに於て民間製鐵所の到底追及する所にあらず是れ余が同所は總て有利の條件にありと稱する所以なり、故に同所に於ては此特點を利用せられ基本製鐵作業即ち銑鐵、鋼塊及鋼片の製出を以て全能力を發揮せられんことを切望するものなり、同所の完備せる製銑關係諸工場、製鋼工場及多數の分塊ロール工場は明かに此使命を帯びて生じたるものなりと信ず、(民間製鐵所に於ては完全なる分塊ロール工場を有するものなし)更に此等三作業に付き順を追うて詳説せんに同所に於ける製銑作業に於ては支那漢冶萍公司与鐵鑛の買収に付き極めて有利なる契約を有せらるゝことは同所の一大強味なり、又新式の骸炭爐を採用せられ且つ是に附隨せる副產物捕集裝置の完備せることは眞に贊稱するに足る、從つて鑄鑪用の骸炭としては内地に於ては最も廉價なるものを供用せらるゝものと信ず、故に銑鐵の製造原價も八幡製鐵所を以て最低格なりと認む製造原價の最低なるのみならず產出額に於ても同所の需用を充たし猶餘剩あることを證明せん。

八幡製鐵所銑鐵年別生産高調

大正三年度	二二一、六七六
大正四年度	二四六、七二五
大正五年度	三〇二、〇五八
大正六年度	二九八、八三六
大正七年度	二六九、一八五
大正八年度	二六七、二六五
大正九年度	二四三、五七二
大正十年度 (十年十二月三十一日迄)	二五二、八三八

本年の全産額豫想

三五二、〇〇〇 匁なり

大正七年度以來衰へたる同所の製銑能率は本年度に至り稍恢復し最近に於ては一ヶ月三萬四千噸餘の産出を見るに至れり、大正五年度頃の四基の鎔鑛爐時代に於てすら三十萬噸の産額ありしより推定すれば六基の現代に於ては四十五萬噸に達せしめらるゝことは勿論容易なる可し然る時は同所の有せらるゝ銑鐵の總額は年間

八幡製鐵所生産額

四五〇、〇〇〇 匁

同所管理中の東鐵

五五、〇〇〇

熔鑛爐生産額漢陽銑

八〇、〇〇〇

合 計

五八五、〇〇〇

となる可し若し東鐵の第二鎔鑛爐の操業を開始せられ猶又漢冶萍公司より契約總額の銑鐵二十五萬噸を毎年移入せらるゝものとせば近き將來に於ける同所の銑鐵所有額は年間無慮八十三萬噸に達す可し、而して八幡製鐵所の自用に供せらるる銑鐵は年間何程なるかを推定するに先だち其根基となるべき鋼塊の産額を調査せん。

八幡製鐵所鋼塊年別生産高調

大正三年度	三二六、二五七 匁
大正四年度	三九三、八〇九
大正五年度	四六一、四二二
大正六年度	四六七、四七二
大正七年度	四二六、〇五五
大正八年度	四二九、三九五
大正九年度	四三五、九六一
大正十年度 (大正十年十二月三十一日迄)	三六九、一六一
本年度の全産額豫想	五〇〇、〇〇〇 匁なり

以上の數量中には工務部及製鋼部特殊鋼料の製産高を含まず。

製鋼作業に於ても大正五年以來能率の著しく低減せるを認められ猶恢復の徴候なきこと左の如し。

八幡製鐵所製鋼作業能率比較表

製鋼爐容	實生産能率
大正三年度	三〇〇 匁
大正四年度	三一〇
大正五年度	四六六
大正六年度	五〇四
大正七年度	五五〇
大正八年度	六一六
大正九年度	六九六
	八一、一八
	一〇〇、〇〇
	八七、七九
	八二、八六
	七一、一〇
	六八、八七
	六一、六九

但し製鋼爐容と稱するは第一、第二、製鋼科に屬する平爐の爐容を示すものにして匁を以て單位とす。

爐容一匁に對し一ヶ年の製鋼能力を八〇〇匁と假定し實製産匁數との比を實生産能率と稱す。

大正四年度より第二期擴張に屬する一部分の平爐の作業を始められたり。

如斯製産能率の低下の原因は主として擴張の進捗と職工の熟練の程度が相伴はざるが爲めなるが故に此の能率の恢復を待たずして更に第三期擴張工事に屬する平爐及タルボー式爐の作業を開始せらるゝなれば同所の製鋼作業能率の増進は極めて遅々たるを免れざるものと看做さざる可からず、本年度に入りては能力は更に増加せられ現今に於ける平爐の作業總爐容は八四〇匁となりたれ共前陳の理由に依つて來年度の鋼塊の産額は五十三萬噸前後なりと推定するに難からず、而して五十三萬噸の鋼塊の製造に向つて要する銑鐵は四十萬噸なる可く外に工務部用三萬噸と假定して合計四十三萬噸にて足る譯なり、第三期擴張工事に屬する平爐及タルボー式爐完成後同所所期の鋼塊八十餘萬噸の製産に對して要する銑鐵は約

六十五萬噸なるべきを以て是に工務部用三萬噸を併せて總計六十八萬噸なり、即ち第二期擴張工事完成の前後を通じて年銑鐵の剩餘は十五萬噸以上なり、是れ恰も民間製鋼業者が所望の數量と適合するものなり。

前記の五十三萬噸の鋼塊は同所に於て悉く消化し得らるゝや否や疑ひなき能はず本年度の鋼塊の產額を五十萬噸と豫想し分塊ロールの消化力の不足の爲めに餘さるゝ所の鋼塊は約一萬噸に達する見込なる由に聞けり、然る時は大正十一年度に於ては軍縮及造船事業不振の影響として厚板及大型構造材の減產を來たし延いて小形條鋼類及薄鐵板の製產を多くせらるゝ爲め小鋼片の壓延數量増加を來たし分塊作業能力は大に減少するものと考へざる可からず、假に本年度と同一數量を消化し得るものと看做す時は鋼塊の剩餘は四萬噸以上なり、而して鋼塊の供給を要望するものは東海鑛業會社關西製鐵所淺野造船所等主なるものなり。

吾人が八幡製鐵所に向つて遣ひ餘りの銑鐵の拂下を希望するは同所の東洋製鐵會社管理の目的が所要の銑鐵の不足を補充するが爲めにあらずして民業保護の大方針に基かれたるものなれば寧ろ當然の歸結なりと云はざる可らず、且つ又鋼塊に餘裕を生ぜることも軍縮及造船業不振の影響より来る自然の結果なり、如斯銑鐵及び鋼塊の拂下は何等製鐵所に對して既定の方針の變改を請願するものにあらず、されども同所の枝葉的作業も制限を乞ひ鋼片の拂下を希望することは所定の方針の變更を強要し同所に非常なる迷惑を及ぼすものと誤解せらるゝ恐れあるを以て詳説することとせん。

八幡製鐵所は基本製鐵作業に全力を注ぎ枝葉的作業は民業

に移すべきものなることは輿論也蓋し同所は其創立當初の如く鋼鐵製造獨占時代にあらず、又軍器獨立主義の爲めのみに經營せらるゝものにあらず、時勢は正に同所經營方針に向て一大轉換を促し來りたるを以てなり、以上縷々述べたる如く軍縮の影響を蒙れる同所が一般市場向品の製造に向つて猛進せられんとするに先ち民間同業者の立場に就て深慮を乞はんとするものなり、同所の作業方針の如何によりては群小民間同業者に深甚の打撃を與へ潰滅せしむる恐れあり、元來同所近頃の經營難は其原因多々あるべしと雖も同所の如き大規模の設備にありては漸次主要品の大製產主義に移らざる可からざるものなるに依然として從來の萬能作業主義を墨守せらるゝ爲め同所の組織は次第に複雑となり敏活なる作業をなすに不便にして徒に冗費のみ増加するが故に莫大の損失を來すものなりと信ず、所謂枝葉繁茂し過ぎて根幹衰へたるものなり同所の基本作業たる製鐵製鋼作業能率比年低下せるは明かに之を證明せるものなり、故に此基本作業の進展に全力を傾注せらるゝことは同所の經營難を救ふ焦眉の急務なるのみならず延いては民間同業者も至大の恩澤に浴し起死回生の靈現ある可く誠に一舉兩得の好策なりと謂はざる可からず即ち此目的に於て同所にては從來の萬能作業主義を廢し民間同業者に於て内地の需用を充たし得る物は是に委ねられ同所は此種の作業を休止せられ猶又民間工場に於て製造し得らるゝものは先づ彼等に全能力を發揮せしめ其不足額丈けを製造せられんことを切望するものなり、而して同所に於ては重軌條類大型構造材及大鐵板の如き民間製鐵所に於て其製造設備を有せざるものを多量產出することに務められたしと進言する次第な

り。

前に述べたる如く民間製鋼業者は特殊品の製造に由つて僅に命脈を維持し居るものなるに八幡製鐵所にて公表せられたる販賣價格表中特殊鋼に對する格外價格の設定其宜しきを得ざる爲め同業者の迷惑は一方ならず、或種の高きに失し或ものは廉きに過ぎ甚だしきに至りては因習的に決定せられたるものにはあらざるかと疑はしむるものすらあり、而して高きに失するものは官廳用品に多く廉きに失するものは民間向きの製品に多し、同所の作業が複雑なる爲め千種萬態の製品に對して適確の原價を求むることは極めて困難なるが故にかゝる齟齬を來たすものならんが輸入價格を標準として決定せらるゝベース價格に至ては原價計算の精粗は問題外なれども、特殊鋼の格外價格の適確ならざることは同業者に向つての一大脅威なりとす、(民間工場は規模小にして組織單純なるが故に特殊鋼原價と雖も迅速且精確に算出することを得るものなり)此脅威は恰も池中の細魚を小兒が掬つて樂み居るを大人が一網打盡の舉に出で可憐の小兒を泣かしむると同様なり、八幡製鐵所の格外價格の決定の不公平なることを細説すれば餘りに専門的に渉る恐れあるを以て其最も甚しきものを舉げて當局者の御考慮を仰がんとするものなり。

製鐵所製品販賣價格表 (壹佛噸に付)

ベ ー ス

丸鋼(徑四分の三吋以上三吋迄)
角鋼(同上)
鋼板(厚四分の一吋以上一吋迄)
極軟鋼線材
工具用普通鋼

一二四
一二八
一二四
一三六
一九八

一、車 軸

普通鋼鍛成品

(其他省略)

各種鋼材エキストラ表

一、鋼質に依るもの

(甲) 普通軟鋼材

一、鐵道省中軟鋼類

二、製鐵所及鐵道省極軟鋼、半軟鋼、橋梁及建築材

三、極軟リベット用丸鋼

四、鐵道省別印極軟鋼

五、軟鋼又は半軟鋼リベット用丸鋼

(乙) 造船軟鋼材

(省略)

(丙) 特種軟鋼材

一、蹄鐵材

二、鐵道省汽罐用管材

三、海軍用同上

四、包丁用地金

五、蹄釘用地金

六、坩堝鋼原料(極軟鋼)

燐、硝黃の制限あるものは更に下記割増をなす

千分の五以下

千分の四以下

九、電信線材

一〇、半硬鋼線材(極軟鋼線材をベースとして)

一一、硬鋼線材(同上)

一二、鋳力板材

(丁) 硬鋼材

一、裏鐵所及鐵道省半硬鋼

二、製鐵所硬鋼、鐵道省中鋼鋼

二二〇
二二〇
一〇
一五
二〇
二八
二〇
一五
四〇
五〇
二八
五五
一五
二〇
五〇
七〇
一六
一一
五〇
五〇
五〇

- 三、製鐵所及鐵道省最硬鋼
- 四、スプリング用最硬鋼
- 五、海軍高張力鋼
- 六、海軍特別堅質鋼
- 七、スコップ用焼入鋼板

(成) 兵器用材

- 一、極軟鋼 四〇^円
 - 二、軟鋼 五〇
 - 三、半硬鋼 七〇
 - 四、硬鋼 一〇五
 - 五、至硬鋼車軸鋼輪帶鋼 一五〇
- (追記、坩堝原料焼及硫黄の制限量を千分の四或は千分の五と記載しあれども萬分の四及萬分の五の誤りならん)

前掲表中最も不公平と認むべき者の二三を指摘せんに單純なる壓延作業のみにて仕上る工具用、普通鋼、スプリング用最硬鋼或は兵器用硬鋼類に對しては七十圓以上百五十圓のエキストラを附しながら壓延、鍛造、焼鈍、鋳削加工を経たる車軸及普通鋼鍛成品の二百二十圓前後なるは如何なる計算に依られたるものなるか、又前述の硬鋼類と同質にして殆んど同一加工費を要する半硬及硬鋼線材のエキストラを僅に六圓及十一圓に規定せられたるは如何にも偏頗の處置なりと信ず、瑞典製硬鋼線材の現在の輸入價格は二百七十圓以上なり、若し又此硬鋼線材中に砲線材をも含むものとすれば一層不當なることを主張するものなり、其他極軟鋼類に於ても首肯し難きもの多し、畢竟同所に於ては精密なる原價計算なきが故に止むを得ざる次第なりとは思ふすれども是等不適當のエキストラ設定が民間同業者に及ぼす影響の重大なることに想到せられ漸次枝葉的作業を廢止せられ由て生ずる餘剰の鋼片は

民間製鐵業者に向て供給せられんことを切望するものなり、斯くして年間約十萬噸の鋼片は裕に拂下げられ得可し。

上述の作業方針を採用せらるゝものとせば八幡製鐵所の製産品販賣高は年額五十五萬噸以上に達し、其價格は五千二百萬圓以上なる可く現在の作業方針に由らるゝよりも增收五百萬圓以上なりと信ず、大正十一年度同所の作業豫算を見るに缺損五百萬圓以上を計上せらるゝも、此方針に従へば却て五百萬圓の利益を擧げて併せて民間製鐵業者も救済せられ内地製鐵業發展の素地成るを以て漸次歩を進めて大合同經營に移り各製鐵所協同し綜合的作業をなすに至り永久の方策確立す可し。

●製鐵合同に就て

松本健治郎氏談

我國製鐵界に投げられた宿題である製鐵業合同論に對し九州製鋼會社長松本健次郎氏は語る『製鐵所合同の理想として二様の意義がある、一は鐵の自給自足を理想とする國策である、他の一は現在の製鐵業者を如何に救済するかにある、世上傳ふる所の所謂合同論は屢兩者を混同して傳へられ、或は一部に喧傳せられ居り、其處に矛盾を生じ誤解せられ易いのである、何れにせよ大體製鐵業其ものが小規模の工場乃至計畫を許さず大規模のものを要するから勢ひ合同論の實現には國營の製鐵所を疎外して到底成立し得ない、其の意味で製鐵所の意嚮如何では困難と思はれる、併し所謂製鐵業合同論の根本である生産費を減じて安い鐵を造るといふことは寧ろ閑却されて形式のみに囚はれてゐるに非ずやと思はれる點もある、目下の製鐵界は日本の全需要の三分の一しか充し得ないのであつて、而も外國品に比し價格に於て格安の相違がある

66
から安くして而も上等品さへ造れば需要者は外國によらずして國內の生産に俟つのは明かな事實である、此根本を没却して合同論もあるまいと思ふ、現在の價格其儘で合同が成立するとすれば夫れは全く有害無益の事である。要するに形式は何れにもせよ、もつと安い鐵を造る事が根本であつて合同其物は抑枝葉に屬する者と思はれる、而して目下合同論者の運動なるものが政治的色彩を帯びて來た傾向があるが之は最も危険な事であつて合同論成立の爲めなら政治的色彩を帯びる事なしに、もつと簡単な處から出發して容易に解決がつく

事と思ふ、合同論も好いが自己の利害を別にして國家といふ觀念の下に實行さるべき者であると自分は考へて居る。云々』
●佛領印度支那に於ける輸入稅率改正
在 海 防 領 事 中 村 修
改正せられたる新稅率の適用を受くる貨物は當領輸入稅率表記載品目の大部分に亘れるが茲には鐵鋼に關係あるもののみを摘録し舊稅率と比較表示すれば左の如し (稅率單位法)

番 號	品 目	新 稅 率	舊 稅 率	現 行 增 加 係 數	單 位
二〇七の二	最薄部に三「ミリメートル」或は夫れ以下の竿狀に鍛冶し又は平延したる鐵若くは鋼等	二六・〇〇	九・七五	一・三	百「キロ」
二一〇	鐵又は鋼の平面薄板				
	次記厚さを平滑に切斷せざるもの				
	一「ミリメートル」以上	二八・〇〇	一〇・五〇	一・四	同
	十分の六「ミリメートル」以上一「ミリメートル」迄	三六・〇〇	一三・五〇	一・四	同
	十分の四「ミリメートル」以上十分の六「ミリメートル」迄	四〇・〇〇	一五・〇〇	一・四	同
	十分の四「ミリメートル」以下	四四・〇〇	一六・五〇	一・四	同
	次記厚さを有する平滑に切斷したるもの				
	一「ミリメートル」以上	三〇・〇〇	一一・二五	一・四	同
	十分の六「ミリメートル」以上一「ミリメートル」迄	四〇・〇〇	一五・〇〇	一・四	同
	十分の四「ミリメートル」以上十分の六「ミリメートル」迄	四四・〇〇	一六・五〇	一・四	同
	十分の四「ミリメートル」以下	四八・〇〇	一八・〇〇	一・四	同
	平滑に切斷の有無を問はず光澤を施したるものにして次記厚さを有するもの				
	一「ミリメートル」以上	三六・〇〇	一三・〇〇	二・四	同
	十分の六「ミリメートル」以上一「ミリメートル」迄	四四・〇〇	一七・〇〇	二・四	同
	十分の四「ミリメートル」以上十分の六「ミリメートル」迄	四八・〇〇	一八・〇〇	二・四	同
	十分の四「ミリメートル」以下	五二・〇〇	二〇・〇〇	二・四	同
	平滑に切斷の有無を問はず火力を用ゐず平延し火力に依り白色又は藍色にしたるものにして次記厚さを有するもの				
	一「ミリメートル」以上	五六・〇〇	二〇・〇〇	二・二	同

十分の六「ミリメートル」以上一「ミリメートル」迄	六〇・〇〇	二三・〇〇	二・二
十分の四「ミリメートル」以上十分の六「ミリメートル」迄	六四・〇〇	二四・〇〇	二・二
十分の四「ミリメートル」以下	六八・〇〇	二六・〇〇	二・二

錫鍍、銅鍍、亜鉛鍍又は電氣鍍の有無、白色化の有無を問はず鐵線及鋼線

断面一平方「ミリメートル」に付抵抗力七十「キログラム」以下にして次記直徑を有するもの

二「ミリメートル」以上	二八・〇〇	一〇・五〇	三・〇
-------------	-------	-------	-----

一「ミリメートル」以上二「ミリメートル」迄	四〇・〇〇	一五・〇〇	三・〇
-----------------------	-------	-------	-----

十分の五「ミリメートル」以上一「ミリメートル」迄	四八・〇〇	一八・〇〇	三・〇
--------------------------	-------	-------	-----

十分の五「ミリメートル」及夫れ以下	八〇・〇〇	三〇・〇〇	三・〇
-------------------	-------	-------	-----

断面一平方「ミリメートル」に付抵抗力七十「キログラム」以上百七十五「キログラム」迄にして次記直徑を有するもの

二「ミリメートル」以上	四〇・〇〇	一五・〇〇	四・〇
-------------	-------	-------	-----

一「ミリメートル」以上二「ミリメートル」迄	五二・〇〇	二〇・〇〇	四・〇
-----------------------	-------	-------	-----

十分の五「ミリメートル」以上一「ミリメートル」迄	六〇・〇〇	二三・〇〇	四・〇
--------------------------	-------	-------	-----

十分の五「ミリメートル」及夫れ以下	一二〇・〇〇	四五・〇〇	四・〇
-------------------	--------	-------	-----

断面一平方「ミリメートル」に付抵抗力百七十五「キログラム」以上にして次記直徑を有するもの

二「ミリメートル」以上	六八・〇〇	二五・〇〇	四・〇
-------------	-------	-------	-----

一「ミリメートル」以上二「ミリメートル」迄	一〇〇・〇〇	三八・〇〇	四・〇
-----------------------	--------	-------	-----

十分の五「ミリメートル」以上一「ミリメートル」迄	一五〇・〇〇	五〇・〇〇	四・〇
--------------------------	--------	-------	-----

十分の五「ミリメートル」及夫れ以下	二〇〇・〇〇	六五・〇〇	四・〇
-------------------	--------	-------	-----

柄の有無に拘らず鑄鐵製、鐵製又は鋼鐵製道具類

鋤スコップ及鶴嘴	四八・〇〇	一八・〇〇	六・〇
----------	-------	-------	-----

大鎌及小麥刈鎌	一二〇・〇〇	四五・〇〇	二・六
---------	--------	-------	-----

調帯に依る廻轉鋸	一四〇・〇〇	五三・〇〇	四・〇
----------	--------	-------	-----

手 用 鋸	一〇〇・〇〇	三八・〇〇	四・〇
-------	--------	-------	-----

刻目を施し又は刻目を施したる鍍類にして仕上げたるもの又は仕上げざるもの

長さ三十五「センチメートル」及夫れ以上	一二〇・〇〇	四五・〇〇	三・二
---------------------	--------	-------	-----

長さ三十五「センチメートル」以下	一六〇・〇〇	六〇・〇〇	三・二
------------------	--------	-------	-----

各種螺盤、螺旋作具、捻棒、制輪機、轉把鉗、錐差、緊締螺旋廻し等にして一箇に付次記重量を有するもの

十五「キログラム」及夫れ以上	六〇・〇〇	二五・〇〇	四・〇
----------------	-------	-------	-----

三「キログラム」及十五「キログラム」以下	一〇〇・〇〇	三八・〇〇	四・〇
----------------------	--------	-------	-----

一「キログラム」以上及三「キログラム」以下	一四〇・〇〇	五三・〇〇	四・〇
-----------------------	--------	-------	-----

鐵と鋼 第八年 第九號

機械師用具

一「キログラム」及夫れ以下

一八〇・〇〇

六八・〇〇

四・〇

同

螺旋狀錐（亞米利加錐）其他螺旋錐、螺旋型の轉軸筒、錐鑄型、磨筒機及螺旋錐一箇に付

八十パーセント

十五パーセント

從價

大鉄の刃伸長用旋轉用、鉋削用、筒眼鑿用、刻目附用具筒内を磨き又は太くする刃、磨筒機の筒、磨筒機及螺旋錐にして刃附のもの、磨筒機の筒、磨筒機其他の道具

一六〇・〇〇
八八・〇〇六〇・〇〇
三三・〇〇二・〇
四・〇

百「キロ」

五四四

縫針、裁縫機用針にして次記の長さを有するもの

五「サンチメートル」以下

一、〇〇〇・〇〇

三〇〇・〇〇

三・三

同

五「サンチメートル」及夫れ以上

六〇〇・〇〇

一七五・〇〇

三・六

同

五四九

刃物類

普通物

一個に付次記重量を有する木鋏

百五十「グラム」以上

八〇・〇〇

三〇・〇〇

一・五

同

百五十「グラム」及夫れ以下

一六〇・〇〇

六〇・〇〇

一・五

同

肉切庖丁

四〇〇・〇〇

一五〇・〇〇

一・五

同

普通の剃刀

八〇〇・〇〇

三〇〇・〇〇

一・五

同

其他即ち砂糖割り又は切具等

一、二〇〇・〇〇

四五〇・〇〇

一・五

同

上等品

即ち象牙、螺細貝又は鼈甲製柄附食卓用ナイフ

二、四〇〇・〇〇

九〇〇・〇〇

一・四

同

其他

一、九二〇・〇〇

七二〇・〇〇

一・四

同

剃刀、小刀及鋏（裁縫鋏以外の）刀

七二・〇〇

二七・〇〇

一・五

同

未加工にして鑄型の痕を残存するもの

四〇〇・〇〇

一五〇・〇〇

一・五

同

型痕を除去せるも他に加工せざるもの

一、二〇〇・〇〇

四五〇・〇〇

一・五

同

夫れ以上の加工を受けたるもの

六〇・〇〇

二一・〇〇

六・一

同

五五九

全部鐵製

鋼部又は眞鍮部を有する鐵製鋳側附

八〇・〇〇

三〇・〇〇

六・一

同

鍵差込用突孔を有せざるもの

一〇〇・〇〇

三八・〇〇

六・一

同

鍵差込用突孔を有するもの

一〇〇・〇〇

三八・〇〇

六・一

同

銅製鋳側附

一〇〇・〇〇

三八・〇〇

六・一

同

鍵差込用突孔を有せざるもの

一〇〇・〇〇

三八・〇〇

六・一

同

鍵差込用突孔を有せざるもの

一〇〇・〇〇

三八・〇〇

六・一

同

五五九の二 鍵差込用突孔を有するもの
南 京 錠

全部未加工鐵製の函附にして飾附なく假漆塗せざるもの

鍵差込用突孔を有せざるもの

鋼差込用突孔を有するもの(鍵先二分したる鍵)

其他の函附

鍵差込用突孔を有せざるもの

鍵差込用突孔を有するもの(鍵先二分したる鍵)

五六五

錫鑢、銅鑢、亜鉛鑢又はコールド塗の有無に拘らず機械製の鐵線或は銅線製釘類

直徑二「ミリメートル」以上

直徑一「ミリメートル」以上二「ミリメートル」迄

直徑一「ミリメートル」及夫れ以下

五七三

銅製又は青銅製美術品或は裝飾品、模造品(純物又は合金亞鉛及鉛)を含む

五七九

銅と合金したるニッケル製及亜鉛と合金したるニッケル(白耳曼銀)製品又はニッケル鍍したる金屬製品

五七九の二

貴金屬類以外のアルミニウム製品
アルミニウム二十パーセント以上を含まざるアルミニウム
青銅製品

●西伯利の鐵山

高 博 士 談

農商務省の囑託で浦鹽東海岸及び西部西伯利沿線ニコリス
ク港外に於ける鐵鑛山視察に出張せられたる九州帝大工學部
教授八幡製鐵所技師高莊吉博士は過般歸來して語る、『過激派
政府所有で目下日本政府の浦鹽駐屯軍所管に係る莫大の火藥
が浦鹽にあることは事實だが自分の浦鹽行は全然是とは關係
なし。唯製鐵所白仁長官の命で鐵鑛を視察に行つたまでのこ
とであるが、兩鑛山共に有望で殆ど無盡藏の鑛脈を有して居
る日本政府が此鐵鑛脈に手を附けるか何うかは知らないが兎
も角目下製鐵所は支那の大冶、桃中、金嶺鎮、朝鮮等から往々

一二〇・〇〇

四五・〇〇

六・一

同

六〇・〇〇

二三・〇〇

六・一

同

八〇・〇〇

三〇・〇〇

六・一

同

一〇〇・〇〇

三八・〇〇

六・一

同

一二〇・〇〇

四五・〇〇

六・一

同

三二・〇〇

一五・〇〇

三・三

同

四四・〇〇

二〇・〇〇

三・三

同

九六・〇〇

三五・〇〇

三・三

同

一八〇・〇〇

六八・〇〇

三・〇

同

四〇〇・〇〇

一五・〇〇

三・〇

同

四八〇・〇〇

一八〇・〇〇

三・〇

同

一六〇・〇〇

六〇・〇〇

三・〇

同

約六十萬噸の鑛石を輸入して居るが將來製鐵所の製鐵事業は
年々擴張して行くし又原料を支那からの輸入のみでは濟經的
にも亦有事の際にも不安心な點があるし又鐵脈にも制限があ
るといふので浦鹽の方に手を延ばす考へかも知れない。』云々

●金屬材料研究所

文部省は曩に東北帝國大學理學部
に鐵鋼研究所を設け専ら鐵鋼に關する各般の研究に着手した
が、今回更に同研究所を擴張し金屬材料研究所と改正し、從
來の製鋼研究の外に冶金部及鑄物部の研究を開始する事に決
定し其の結果關係各官制を改正した。

●山東炭の將來

山東問題の解決と共に日支合辦事業と

して特許會社が創立さるゝに決定した、輜川、坊子の兩炭礦並に金嶺鎮鐵礦の礦區面積は實に擴大なもので坊子炭田五二八平方杆、輜川炭田四一八平方杆、金嶺鎮鐵礦二八三平方杆、合計千二百廿九平方杆、之れを坪數に換算すると實に三億七千百八十餘萬坪に相當する、而して金嶺鎮鐵礦山の埋藏量は普通二千萬噸と見做されてゐるのみで詳細な數字は不明である輜川坊子兩炭田は獨逸人の試錐した範圍内でも既に百三十平方杆で約八億噸の埋藏量ありと稱せらる、今其採掘可能量を七掛と見るも尙五億六千萬噸となり更に之を半分に割引するも尙三億噸の採炭を爲し得るから一ケ年二百萬噸宛を採掘するものと假定すれば約二百年前後は優に之を採掘し得らるる計算である、併しながら現在の稼行狀態は未だ極めて幼稚で、其の需給狀態を見ると輜川炭礦最近の出炭年額は約七十五萬噸見當て其内地元消費高が四十萬噸（鐵道用炭十五萬噸）艦船燃料炭十萬噸、海外輸出十七萬噸で日本向けは約八萬噸位である、又坊子炭田に就ては詳細ではないが現時山東炭は前記輜川、坊子、博山等主なる炭礦の出炭高を合して約百五十萬噸に達しない有様であるが、日支合辦會社の設立を見るに至らば是等各炭礦の稼行上大改革を行ひ、増掘と生産費の低減を圖り販路の擴張に努むることは勿論で、將來に於ける山東炭は東洋市場に大飛躍を試みることになるであらうと觀ぜられてゐる。

●**鑛滓より硝子製造** 製鐵所技師加藤宏信氏は鑛滓より硝子壘其他化粧煉瓦の製作を發見したが右發見は實に世界的大發見であつて而も生産費が普通の壘硝子や化粧煉瓦生産費の半値平均で完全に出来るのであつて之が事業の着手の曉

は硝子界に一大革命を來す事になるであらう加藤技師は發見の經過に就き語る『元來スラッグ（鑛滓）には頗る硝子に近い性質を有してゐる者があつて偶然の機會から硝子を作り得る可能性を有してゐる事を發見し、搗て圖らずも發見當時古書等に依つてヒントを得て興味を覺え昨年中秋頃から研究に着手したのである。研究に就ては某硝子會社の手を藉りて苦心したのであつがスラッグから出来る硝子には色の着く事と性質の脆い事が二大缺點である事を思ひ合せ其缺點を除去する事に全力を傾注した結果スラッグ二十％に硅石石灰石を混じて麥酒壘様の物を始めて造り得、最後にスラッグ八十％に硅石石灰石を混じ始めて透明な完全な物を作り得たのである、之に依つて始めて有色の性質を除去することが出来たが、脆い性質はスラッグ自身が有する性質であつて大部分は緩和する事が出来たが板硝子を製作する事は到底出来兼ねる事である、生産品は重に壘硝子であつて倉庫用の窓硝子化粧煉瓦に使用する事が出来るのである、生産費は先づ原料を普通の通り入るとして壘硝子半値、化粧煉瓦は三分の一の價で出来るのである。右の算定に依れば鑛滓一噸が十五圓と云ふ高價な値打が出て来る譯である、現在鑛滓で製作して居る鑛滓煉瓦は一噸に付八十錢の利益があるのであるが硝子を作るとすれば殘る所の利益は連も鑛滓煉瓦の比ではない、目下製鐵所の熔鑛爐から排出されるスラッグは一日七百噸であつて、内二百噸を煉瓦に使用してゐるから五百噸は硝子製作に充てる事が出来る、生産高は優に四五百噸に上るのである、更に溶鑛爐から出るものは直接使用するとすれば燃料に於ても二割強の節約が出来る譯で旁非常に經濟的のものになるのである、

製鐵所が直ぐ硝子製作に着手するや否やは長官の意見を仰がなければ疑問だが自分としては製鐵所が直ぐ着手するやうになることを希望する次第である。

●含銅硫化鐵礦の殘滓利用研究 横堀治三郎氏談

暑中休暇中中國四國方面を視察して歸京せられた秋田鑛山専門學校長横堀治三郎博士は鐵の自給自足を期するには鑛石の貧弱な日本としては是非含銅硫化鐵礦を利用せねばならぬと大要左の如く語られた。

四國で產出される含銅硫化鐵礦は現在の硫酸工場が全能力を發揮したならば、一年に五十萬噸位は使用されやう(尤も現在は不景氣の爲に十四五萬噸に激減してゐるが)而して其硫酸を取つた滓は多く銅精煉の原料に供されてゐるが、更に殘る鐵は殆ど棄てられてゐる、之れが殘念だと云ふので、日本鋼管會社で今泉嘉一郎博士が大阪に工場を設けて熱心に研究した、元來此方法はヘンダーソン法と言つて殘滓に岩鹽を加へて燒くので鹽化銅は水に溶かし、鐵分は溶けず殘る、之れを鐵礦とするので、獨逸や奧太利などでは古くからやつてゐた事であるが、更に瑞典でラメン法が発見された、之は爐が專賣特許になつてゐて非常に成績がいゝので鋼管會社は之を買收しグレンダール式燒爐を設け細粉された鑛石をブリツケットして大分成功に近づいた時、時局關係で中止せざるを得ぬ様になつてしまつた又古河系の大阪精鍊所もラメン式でやつたが之れも惜い事に中止された、併し含銅硫化鐵礦から銅と硫酸がとれれば必ず鐵がとれぬ筈は無い、殊に日本は鐵鑛石に乏しい爲めに製鐵所までが支那から原鑛石を輸入してゐる始末であるが、之れが瀬戸内海鑛石で間に合ふと云ふ事

になつたら大いに有利では無いが、殊に硫酸工場が濕式精練法に據つてゐるので硫黄や燐などの不變物の含有が殘滓に多い事が製鐵上には非常に都合である、要するに細粉されてゐる殘滓をブリツケットすると言ふ技術上の問題であるから研究に努力したならば必ず成功する事と信ずる、勿論最初は此殘滓だけで製鐵も出來まいから之れを鐵鑛石に混合せねばならぬが技術が進歩したら此殘滓だけで製鐵し得るやうにもならう、日本に含銅硫化鐵礦の分布してゐるのは非常に廣汎で遠州の久根、古河の飯盛、中國では藤田組の柵原等其他山形方面にも多い、併し今日の様に鑛業界の不況時代に民間の營利會社がやると言ふ事は非常な苦痛であらうから此際國家事業として製鐵所が奮發して研究を完成して貰ひたい者である、若し之れが成功すれば鑛利を増進し我製鐵事業の上に一新紀元を劃するものとなり得やうと思ふ。

●製鐵所購入炭 製鐵所大正十一年度購入石炭は製鐵所が極端なる底値を狙つた爲め價格の折合が附かず今日迄延引されて居たが今日に至つて略決定を見た、本年度石炭總數量は百四十七萬噸であつて價格は昨年に比し稍高値である、地炭は概して幾分安く粉炭は約三割高の貳圓見當高値である。今内地海外炭の決定した數量を示せば内地炭は昨年に比し約十萬噸減であつて今決定を見た分は鈴木商店の二萬噸、安川の五萬噸未済の分は二十萬噸である、其内十萬噸内外は三井三菱のものであるが之は僅な差で目下協定行惱みを生じて居る模様である、以上は本年度購入石炭であるが昨年からの引續きである十四萬噸を合すれば内地炭は五十萬噸を算して居る。海外は開平の十四萬噸を筆頭に四川の三萬噸、本溪湖三

萬噸である、製鐵所の炭山は二瀬が九十四萬噸、鹿町六萬噸であつて二瀬は昨年比し十四萬噸増加して居る譯である。

●**印度製鐵發展對策** 印度のタ、製鐵會社の銑鐵は本邦製鐵界に對し一大脅威を與ふる者で同會社の計畫に依ると、同社五年後に於ける輸出能力は頗る多額に達するので、我製鐵業者は同社に對する對抗策に勘からず頭を悩まして居る、同社の製鐵が我製鐵界を脅威する理由は其の價格が噸當り貳拾圓見當といふ廉價である爲で、我民間製品の製産費のみで噸當り五拾圓見當、八幡製鐵所の製品で四拾參四圓といふ現況に比較すると實に參拾圓乃至貳拾參四圓の値開がある。

八幡製鐵所では此のタ、社と對抗する爲に製鐵所現行の競争入札其他指名入札等による各種原料の購買方法を改正して商事會社の購買方法を採り購買課の官吏を商人式に訓練して原料買入價格に於いて約二割、燃料節約等の生産費節約によりて約一割五分、合計三割五分の生産費低下を圖り五年後のタ、會社の大活躍に對抗する成案を得たと。

●**製鐵所産又物** 製鐵所販賣課湊書記は曩に北陸方面の又物生産地に出張して製鐵所の特種生産品供給方に就き考究する所があつたが歸來した氏は語る『從來各生産地とも屑鐵を使用して居たもので中には優秀なる品物を造りたいと思ふて居た向などは或は原料難を啣つたものである、製鐵所の製品は其點に就て周然する所の無いものであるから持つて行つた見本を使用した人は非常に歓迎したうであるけれども十中八九は實際に試験しないものが多いから更に行渡るやうに多量の見本を送つて呉れと云ふのが各地の希望であつた、此分ならば我國の又物界には將來漸次製鐵所の製品のみを使

用さるゝ事になるであらうと信ずる。

●**製鐵値下影響** 製鐵所は去る三十一日附を以て平鐵從來百參拾五圓の値段を百參拾圓、平板同浪板が從來二百六拾と貳百六拾五圓であつたのが貳百五拾圓に孰れも値下した、之れは前記平板及亞鉛引鐵板の製鐵所物が市場の相場に比し著しく高値であつた關係上に原因するが、然し同時に從來一千噸以上の數量に對して一噸に付き拾圓の割引をして來たのが此度は改正されて八圓となつた爲め此の値下された以外の品物は結局千噸買つても却て從來より二割高となる譯である爲め斯業者に取つては不利な譯である、但し原板大型物に限り混入して買つた場合は從來通り拾圓の割引をする、其の理由は造船不況並に海軍縮小の爲め賣行き不振を極めてゐるので之れが賣行きを奨勵する爲め特に斯る條件を附したのであると而し市況は夏枯て需要なく唯製鐵所製品が從來甚しく高値であつたのが略市場相場と平行したゞけであるから今回の値下は何等の影響もしない。

●**製鐵所の在荷** 製鐵所の七月の鐵材拂下は一萬五千五百噸、其價格は平均百貳參拾圓になつて居る、内譯は鐵道省七千噸と海陸兩省其他官衙向で一般市場向は殆んど數ふるに足らぬ數量である、現在のストックは約七萬噸で依然先物注文杜絶の姿にあるからストックは益増加の傾向を示してゐる、同所一ヶ月の總生産高は約三萬五千噸乃至三萬七千噸で毎月二萬噸内外はストックの餘儀なき状態になつて居るので目下市況擡頭の際需要見込のあるものを主として製作貯藏する方針である。

●耐火煉瓦の研究

製鐵所研究課では目下田所博士

の手で耐火煉瓦の研究がなされて居るが同耐火煉瓦は從來の耐火煉瓦に比し頗る安値なものと耐火力が甚大であるのとて其結果の良否は頗る注目されて居る、右に就き田所博士の語る所によれば耐火煉瓦は從來噸當り拾參圓五拾錢餘の高價なる一等硅石を使用したもので右の一等硅石は百四十度の熱に熔解して居たのだ、之に比し自分の手で研究中のものは噸當り僅に參圓の頗る安値な三等硅石を使用するのであつて其熔解熱度の如き一等硅石が百四十度の熱を要するに比し三等硅石は百六十度以上の熱を加へなければ熔解が十分でないのである、従つてそれだけ耐火が強大である譯である、目下實驗では成功を見たが右耐火煉瓦の製作に従事するとせば非常に高價な竈を使用せねばならぬし工場を改築せねばならぬ等の不便があるから直に製造に従事するや否やは疑問だと。

●職工の恩給制度制定 製鐵所職工の恩給制の制定と共濟組合規則改正は多年の懸案で當局でも最も頭を痛めて居た一であつたが山縣庶務部長は過般態々上京本省と大藏省との間に奔走打合中であつたが漸く決定したので去る二十七日設定に決定した、恩給制度は二項目で

第一項は日給五拾錢以上の職工で二十年の勤続者には毎年日給三箇月終身間支給する事

第三項は十年以上勤続職工で公傷疾病其の不慮の災難にて労働に従事する事が出来なくなつた者に終身恩給制として毎年當時の日給の三箇月分乃至六箇月分支給する事

としたのである之に依つて労働者の最も不安を感じて居た老後の保障と變事の際の心配は一掃せられ安んじて雇傭される事が出来るやうになつた又共濟組合規則改正の主要點は支給額の増加であるが妊婦産婦其他の場合で休んだ時は從來の殆

ど三倍の額を支給する事に改正された、随つて積立金は從來一箇年二十萬圓であつたのを五十萬圓に増額し會員は一箇月日給六分を積立て總額の半分を補助する事となつた、因に現在の基本金額は百五十萬圓である。

●鐵鑛石供給交渉 製鐵所に向け最近メキシコ及印度方面から鑛石の賣却を交渉して來た、値段は内地着の運賃を加算しても尙安價であるが、製鐵所では目下鑛石購入の必要もないので考慮中であると。

●歐洲製鐵界の近況 最近八幡製鐵所に達したる情報に依れば獨逸は政變及び馬克相場の下落其他の事情に依り製鐵界は益不況を示し且材料の缺乏を告げてゐる之に反し佛國及び白耳義は漸次活氣を呈してゐる今佛國に就て見るに同國は二ヶ月以前より鐵工業市場は活況の傾向を帶び來れるが今は益其度を増してゐる、事業界は鐵工業のみならず凡ての工業を通じて恢復しつつあり。

獨逸は佛國に對し鐵鋼材の注文を續々發し佛の市場は益々活氣を帶びて來た、東方及ローレン地方に於て從來休業せる所の熔鑛爐は今は操業を開始してゐる、銑鐵産額も一ヶ年以前に比し倍加するに至つた。

ザール地方に於ける熔鑛爐の操業數は合計二十基に達してゐる(總計三十基)銑鐵及鋼生産者は他の工業及其他の財團と内國及び外國貿易の爲目下商議を開いてゐる商議の要項は關稅輸出運賃其他特別なる處の輸出上の材料に關する條件に就てである。白耳義に就て見るに之又外國に關する限りに於て活況の徴候を示しつつあり一般に云へば從來の不況は一轉し漸次改善せられつつありと云ふ事が出来る、鐵價の動搖も

殆どなく多くの工場は生産高の増加を圖つてゐる。白耳義市場に於てはルクセンブルグとの競争益激烈となつてゐる、最近整理せる貿易條約に於てはルクセンブルグの製品は白耳義に無關稅で入る事となつてゐる白耳義爲替相場騰貴した爲め英國品は殆ど白耳義に入らず賃銀上の爭議落着し大部分は製鐵職工によりて其條件を受入れられた。

●獨逸鐵材引合増加

荒廢のまゝ生産減の極に達し前途尠からず悲觀されてゐた獨逸の製鐵事業は戰後早くも面目を改めクルップ、ルーテール等代表的工場を始め其他大小工場の復舊著しく往年の盛大を實現するも遠い將來では無からうと觀測されて居る獨逸製鐵事業の回復に關し最も有力なる原因と見るべきは、(一)原料鐵礦、(二)燃料石炭の豊富にあるけれども、一面只國力の回復を念とし、あらゆる屈辱を忍びて努力の限りを盡した上下一致の國民の力も決して尠少ではなかつた。今日獨逸品と云へば一も二もなく粗製濫造の誹りを受け多く顧みられないが獨逸鐵製品のみは聲價を失墜しないのみならず英米製品に對し毫も遜色を認めぬと稱せらるゝ位で、日本に於ても是が引合を開始するもの漸く増加し、既に一勢力を作つたかの觀を呈して居る、最近門司入電に依ると獨逸製品のレール六十ポンド物一萬二千圓、同上七十五ポンド物一萬五千圓であるから是れを從來輸入し來た米國物に比較すると概して八分乃至一割安に當り大量物は漸次獨逸製品に引付けられて居ると云ふも過言でない、人氣の移動は單に價格の低廉なるを語るに止まらずして品質の優良を立證するものと見て宜しからう、某輸入商の談に曰く『今後獨逸製品は益々輸入を増加するものと思ふ、一般の懸念する處は、

(一)納期の遅延、(二)財力乏しきを以て契約と同時に大部分前金支拂の便宜を與ふる事であるが、今日までの經驗に依れば何れも満足に行はれて居る、取引は英金貨を以てし彼我共に安全の地位にある譯で仕切金に對しても毫も不都合は生じない、馬克激落は本邦其他への輸入一層容易となり前途甚だ注目される様である』云々。

尙最近の外國鐵材に關する門司某所入電に據れば相場安きも依然として獨逸鐵材の引合頗る多く僅に倫敦ものゝ入電が散見さるゝも、米國鐵材は炭坑勞働者同盟罷業の影響と米國內需要の増加に依りて目下指値高となり殆ど引合杜絶の狀態なれば獨逸の棒鐵並にインチは日本沖着一噸百十圓を唱へ英國溝工形百二十五圓見當なりと云ふ。

●英國金物市場

石炭 石炭に對して米國の引合あるも多からず小閑なり歐洲大陸向不振にして炭坑地方は先物賣越の爲多忙なりアドミラル一等炭三十一志を唱ふ。

銅 銅は内地需要稍々増加し始めたるも引續き軟調なり、歐洲大陸は現今の政治的不安の影響を受け買氣薄く加ふるに磅高値の爲銅價漸落の傾向にありしが最近弗跳返したる爲幾分緩和せられ相場は標準銅六十三磅二志六片電氣銅七十磅なり鐵及銅 鐵類は總じて落付かざるも相場は不變なり、尤も買手は先安を見越し見送り中なり。銑鐵は米國加奈陀より相當引合ある外歐大陸の註文激減し加ふるに白耳義物等の競争ありて賣捌きに困難しつつあり。鋼鐵は不振にして内地に於ける需要貧弱なり輸出品は濠洲印度向輸出業者の競争激しく市場賣崩しの虞あり。

鋳力及鋇類 鋳力は沈靜なるも内地向弗々商ひあり輸出は極

めて閑散にして加奈陀向少量の引合あるのみ、然れども市價強調相場十九志三片を唱へスワンシ在荷十三萬四千箱と稱せらる、ブラツクシート不味なるも日本向薄物及亞鉛板原料の輸出少量あり、相場は百七封度もの十四磅十五志なり、亞鉛板は印度方面の引合減少したるも濠洲南米向少量の輸出あり市場閑散相場不變なり。(九月六日倫敦發電)

●米國鐵界漸次恢復

輓近一兩年間經濟界の不況を蒙り甚しく悲境に陥りたる米國製鐵業は自動車建築並に鐵道界の景氣恢復に基き漸次活氣を帶び各種製品に對する注文相踵ぎ又一方久しく買控へ居たる需要者側も手許品薄となるに隨ひ買進み爲に現物引渡は殆んど不可能となり二三箇月先物取引が旺に行はれてゐるが其注文高も益々増加し市俄古地方製鐵工場に於ては前年同期に比し約十倍の注文を引受けたのみならず引受を拒絶した高が十萬噸以上に及んでゐる。鐵價の變動を見るに最近に於ける最低額を示せる本年二月の主要製鐵品十四種の平均相場三十二弗八十仙は爾來上押の氣分加はり五月中旬迄に三弗の騰貴を示した其の後市場相變らず睨りたるも變動は緩慢である、今回の恢復は需要の漸増に伴ひ相場の變動順調にして當業者亦製産に無理を爲さざりしに徴し持續的現象である様に見える、然し四月以來の石炭坑夫罷業の結果は燃料不足を生じ爲めに炭價騰貴し東部地方に於ては其の作業を一部休止したものである、製鐵工場に於ける職工賃銀は他の工業に比して格安なりし爲本年二三月頃より勞働の不足を感じ居るを以て斯業の發展と共に益々急迫すべきは當然にして右二點の解決如何は將來の米國製鐵界を左右するの鍵鑰であると觀測されてゐる。

●米鐵值上と内地市況

紐育發電に依ればユー・エス・スチール會社は石炭及鐵道のストライキが解決しない爲

燃料の不足に依り棒鐵型物鐵板のベース値段を五弗三十仙と發表するに至つたが其の他の鐵材に對しては値上無し即ち横濱着値段に換算すれば百四十四圓五十錢に相當する、然し之等値上せられた棒鐵型物、鐵板以外の相場は亞鉛引八番鐵線二百五圓五十錢、釘十四圓八十錢、鐵葉百封度十二圓九十五錢であるが、ストライキが依然として長引けば棒鐵の如く値上を見るかも知れない。

尙桑島領事の發電に依れば市俄古の鐵價は上押の傾向を續けたる處、最近相場原價に就ては銑鐵二弗、鋼製品三弗乃至五弗の騰貴を示せり、右は銑鐵工場從業者の賃銀引上げと、原料品殊に炭價の騰貴に基くものなりと云ふ。

他面内地鐵材市況は夏枯れに搗て加へて地方筋の不振と相待つて相場一向振はず、在荷は二月以降漸増一途を辿つて居る其の内譯は次の如くである。(單位百噸)

品名	六月	五月	三月	昨年十二月
棒鐵	四八	四一	四二	三五
板鐵	六一	六〇	五〇	三二
型物	一五	一三	一〇	九
針金	一七	一五	一四	三
釘	八	八	八	一
レール	三	五	四	三
鐵葉	八	九	一三	二
亞鉛引鐵板	六	四	四	三
其他	二六	二	二	五
合計	一七三	一五九	一五〇	九三

而して輸入傾向を見ると六月は九萬九千五百八十六噸、金額一千四百二十二萬〇三百三十一圓で前月の七百十五萬圓、四

月の百十四萬圓、三月の百十五萬圓と漸次減少し來つたのは輸入約定が六月を以て殆ど終了した爲であるが月別輸入高は次の如し。

	噸	圓
一 月	四六、二六〇	八、四一七、二五一
二 月	六九、七一九	一二、二六九、五四八
三 月	九四、六〇一	一五、四三六、五一九
四 月	八八、八六四	一四、〇九三、三八八
五 月	一〇〇、五一三	一五、〇八五、九三七
六 月	九九、五八六	一四、二二〇、三三〇

●米鐵操短 米國鐵道從業員が大統領の仲裁を拒絶した結果豫て石炭の不足を感じてゐる同國製鐵業中前途一層の燃料難に陥るべきを豫期し、昨今熔鑛爐を休止するものが續出しつゝあり、また現在操業中の工場でも燃料の不足による生産難と鐵道罷業による積出難を見越し新規賣出品に對しては工場の勝手渡を條件とし一定の積出時期を指定せる註文には應じない。尙ユー・エス社では製品の値上を行ひ本邦への引合値段の如き棒鐵板ともに噸に付神戸沖着四十八弗五十仙であつたものを今回五十四弗六十仙とし異常な引上を行つた。

米鐵操短に對する八幡製鐵所の觀測では『最近迄白熱的挑戦を續けて居た國際鋼鐵市場に於ける英米貿易戰は操短の爲め米國側に一頓挫を來し米國の必死的商策もその效なく南洋市場の如きは米國の失敗に終るであらう、而して英米並に大陸方面ともにその餘勢を受けて行動するであらう』と云ふのであるが、尙右の如く海外に於ける情勢が我鐵市場へ影響を及ぼすのは相當時日を要するが米鐵操短が軍縮政策の結果であるなら八幡製鐵所の方針も内地民間向製品のため飛躍する

であらう。

●米國太平洋岸の鋼鐵會社聯合 七百五十萬弗の資本を以て近くユタに創立さるべき銑鐵會社は聽て二千萬弗の資本を以て設立さるべきバシフィック・スチール・コーポレーションの第一歩たるべきものである、同會社は沿岸の各鋼鐵製造會社の聯合及び擴張であつて太平洋の各銀行から之に出資する事となつてゐる、桑港の鋼鐵工場は之により二倍の製造能力を有するに至りシャトル及びポートランドの工場も擴張する筈である。

●米國に於ける製鐵從業員の就業時間

在シカゴ領事桑島主計

米國に於ける製鐵業從業員の勞働時間に關し一九一〇年より一九二〇年十月に至る過去十箇年間の消長を調査するに其變遷甚しきものあるを示せり。本報告は製鐵業關係各種工場の調査報告を基礎として作成したるものなり。

一九一〇年中葉鐵、鋁鐵、鍊鐵、各種工場及比較的高等技能を要すべきセマ―製鐵業を除く外の一般製鐵工場に於ては殆ど悉く十二時間勞働制を採れり、尤も一日十二時間制と稱するも毎日間斷なく十二時間勞働に服するにあらずして主として交代勤務制に依るものなり。

衝風爐は其性質上十二時間勞働一週八十四時間作業に従事せざるべからず從て各工場に於ては大抵二十四時間を十時間十四時間又は十一時間十三時間交替勤務に區別し或は他の方法に依り交代時間を適當に定め居れるも其作業時間は一日平均十二時間本位としたるものなり。

一九一〇年の統計局の調査に依れば衝風爐の製産部職工の

七割五分は一週八十四時間労働に従事せり、然るに同年中各工場主は一週一日の休息を與ふる新例を開きたる結果一九一五年中衝風爐の職工中一週八十四時間労働に従事したるものは四割一分に減少したるが更に一九二〇年には二割九分に減少を示せり。

一週六日、一日十二時間労働制を採用したる結果一九一〇年、一九一五年の兩年度に於ける従業者の職員數は非常なる増加を示したるが一日平均九時間以下の労働に服したるものなし。

一九二〇年中衝風爐の従業者は一週六日、一日十二時間労働に服したるもの僅に全員の二割一分、六日と七日の各週交替勤務者二割三分、一週七日、一日十二時間の勤務者二割九分、一日十二時間六日及七日各週の交代作業勤務は一般に行はれ六割三分を占め居れり、然るに八時間労働制度が廣く一般に紹介せらるゝに至りては一週七日間労働に従事したるもの一九二〇年中一割七分に減じたり、更に一週五十六時間労働制度一般に普及せられんとするに當り八十四時間制の廢止を唱ふるもの多きは當然のことなり。

鍊鐵工場の作業は一週六日間或は一週六日五夜の作業に従事し鍊鐵工支面金工等は一週九時間以内の労働に服し居れり一九二〇年中鍊鐵工の六割五分は一週六十時間以内の労働に服し二割は一日八時間労働に服し更に他の二割は一日十二時間労働に服し居れり。

大量の注文需要なき限りベセマー製鐵及平爐の二工場に於ては七日間連續的作業の必要を痛切に感ずることなかるべし。

六日間作業に基き製鐵事業を進むるときは實際作業に使用すべき労働者の豫備人員は非常に多數に上るべきを以て製鐵業者も八十四時間制を實際に廢止すること能はず一般に未だ勢力を有する所以なり。

一九二〇年度に於てベセマー製鐵工場従業者にして一週七日間の労働に従事したるものは一九一〇年に比し六分を減じたるが一週六日及七日の各週交替勤務者にして一日十二時間の労働に服するもの七割五分以上に達し居れり、右の外一日三回八時間交替勤務は二割二分を占め居れるも其大多數は技術工に限られ居れり。

一九一〇年中平爐の従業員にして八時間本位の労働に服したるもの一分の割合に對し一九二〇年中には實に三割の増加を示せり、此結果十二時間労働に服するもの一九一〇年に於て八割なりしもの一九二〇年には五割に相當する減少を示せり、而も從來の習慣上一週七日間の労働に従事するものは三分の一を占む。

塊鐵工場を除ける各種の展鐵工場に於ける一週七日間作業者は過去十一箇年間の統計に徴するときは極めて稀なり、然るに十二時間制は精鍊工場及製鋼工場等に比較し展鐵工場に於て一般に普及せられ居る状態なり、葉鐵ブリキ工場に於ける十二時間労働は一九二〇年に於ては一割以内、八時間勤務交替勤務者は六割乃至七割内外なり。

ホットミルに於ける職工平均就業時間は精鍊製鋼兩工場中一は四十二時間三分の二、他は四十五時間三分の一にして其交替作業は三分され最初の一週間は六日、五日、五日次の一週間は六日、六日、五日の順序に就業し居れり。

軌條工場に於ける労働作業は一週四十八時間制にして一週六日、一日八時間制なるが之を一九一〇年及一九一五年の四分の割合に比し一九二〇年に於ては實に三割五分に相當せる増加を示せり、從て十二時間六日間就業即ち一週七十二時間労働は數に於て減少を見たる譯なり。

一九二〇年軌條工場に於ける一日十二時間労働者は六割に達し八時間交替勤務者は四割なり。

一九二〇年中釐鐵工場の従業員一週七十二時間以内の就業者八割五分を占む之を一九一〇年の七割九分と比較するときは六十時間以内の就業者數は一九一〇年二割三分より一九二〇年は三割七分に増加したり。

釐鐵工場の従業員約一割五分は八時間交替勤務者にして五割以上は十二時間交替勤務者なり、尤も十二間交替勤務者の多數は土曜日の就業時間を切上げ居れるを以て最初の一週は五日、次の一週は六日の作業に服するもの三割三分に達し居れり。

一九二〇年中塊鐵工場に於ては十二時間交替従業員は約六割にして八時間交替従業員は約二割五分なり。

一週七日間全部若くは一部の作業に従事するものは一割八分を占めたり。

●野呂理事の近狀

本會理事野呂博士は今春三月以來御病氣の處、頃日全快せられ、目下相州片瀨に轉地中、不日歸京の上會務に盡力せらるべし。

●井上編輯委員の洋行

本會編輯委員東京帝國大學助教授工學士井上克己氏は今回二年間佛國へ留學を命ぜられ來る十月二十七日出發、同日伏見丸にて出帆せらるゝことに決定せり。

●居所不明者

左記諸君の居所不明に付會誌發送其他に不便有之候間御存知の御方は乍御手數御一報被下度候

正會員

伊勢良輔	長谷川是一	長谷川謙	劉述錫
太田正利	伊達甚太郎	都留貢	中村喜厚
牧正美	増田政治	藤井鐵藏	川原有美
米島左馬藏	直村盛之助	隈崎佐太郎	松井直敏
牧野立	伏見政治	荒谷正三	鈴木武司

准會員

堀田順造	富永豐	小副川要作	小笠原清治
小笠原巖	大西賢太郎	近江廣治	河村國助
田島亨	玉井秋治	辻敬三	仲田定之助
永井健三	野田長作	桑原與三	山田豐
山崎直吉	前川喜作	藤田善三郎	佐藤英雄
佐野敬三	齋藤平太郎	久富政太郎	本村一郎
森島修三	稻垣和三郎	原田公	林田滿
中野懇六	向田兵次	宇津信義	内川淺吉
山室銓一	前川治市	松本滋	藤田忠一
遠藤呈助	遠藤忠治	清水嘉市	